



小戸公園で、小さな秋見つけた

20日(金)は、前日の深夜に降った雨が気になりましたが、当日は見事に晴れ上がり、子どもたちが楽しみにしていた遠足を実施することができました。昼間は、夏を思わせるような陽気となり、前日までの雨で、公園の芝生も湿って、子どもたちは座れないのではないかと心配しましたが、杞憂に終わりました。子どもたちは、広いグラウンドの片隅に、可愛いシートの花を咲かすことができました。遠足係の職員が、一番、ほっとしたようです。

中学校・高校よりも広々とした小戸公園で、子どもたちは、思う存分体を動かし、健やかな汗を流すことができました。どんぐりも、思っていた以上に落ちていて、子どもたちは持ってきた袋に小さな秋をいっぱい詰め込みました。

糸島市の小学生が、幼稚園よりも早く来ていましたが、5年生ということが幸いし、ボール遊びやアスレチックに夢中になり、どんぐりには関心を示していませんでした。お陰で、遅れても、子どもたちは、たくさん拾うことができました。

せっかくの機会ですから、幼稚園からフラフープ、ボール、三角コーン、長縄等を準備しましたところ、年少さんは、フラフープを転がしたり、腰や首に回したりして遊びました。フラフープが、ちょっと転がっただけでも大喜びだったのが、次第に、長くそして遠くへ転がすように工夫していました。「園長先生、見て、見て！」の言葉で、年少さんから離れられませんでした。年中さんは、最近始めた長縄跳びを広いグラウンドで、誰にも迷惑をかけずに縄をのびのびと回し、楽しむことができました。年長さんの多くは、運動会で夢中になったリレーの続きです。三角コーンで作った円を、何周も駆け回り、楽しんでいました。松林や草原でバッタやテントウムシ探しに夢中になる子どももいて、一人ひとりが、秋を満喫できた一日でした。



小さな苗からでっかい収穫

年中さんの一人一袋の芋の栽培活動です。植えてから約4か月の栽培期間を経て、17日(火)に芋掘りを行いました。一人ひとりが、春に植えた芋の苗からたくさんの芋が出てきました。正に芋づる式です。袋を破っただけでは、芋は見えませんが、土を少しずつ取り除くと、中から赤い立派な芋が次々と顔を出してきました。芋の大小にかかわらず、芋を見つけた年少さんは、自分が育ててきた芋に愛着を持っていました。にっこりと微笑みの中に、収穫の喜びと生命の不思議さを感じていたようです。

後日、芋をベースにした芋ケーキをみんなで作りました。自分で育てた芋を材料にしたことから、それまで芋嫌いだった子どもが、きれいに食べることができたという報告を受けました。大変嬉しいことです。私どもは、こうした栽培活動を通して、苗から大切な食物として芋になるという生命の不思議さや、植物でも命があり、命あるものを大切にすることを体験を通して感じ取ってほしいと思っています。また、食物を大切に、好き嫌いをなく食べることも大事な教育として取り組んでいます。



大学のお姉さん先生と

23, 26, 27, 30日の4日間、筑女大人間形成専攻の1年生181名が見学実習で来園し、子どもたちと共に過ごしました。今回、幼稚園を初めて訪問した実習生は、子どもたちから「お姉さん先生！」と呼ばれ、初めは戸惑いを感じながらも、気分よさそうでした。子どもたちは、若い先生が相手ですから、いつも以上に園庭を走ったり、先生にぶら下がったりして、楽しいひと時を過ごしました。

本園は、一人ひとりの子どもの興味・関心に応じた自発的な遊びを尊重した教育を進めていますので、実習生にも本園の教育のよさを体験してもらいました。先生の目が届かないような所で子どもの姿をどう捉えているのか、全ての子どもとどう関わっているのかを少しでも分かってくれたらと思っていますが、何はともあれ、まずは、子どもたちと楽しく遊ぶのが実習のねらいだと考えています。